

見どころ、特徴を解説してくれるので、次に訪れる楽しみができた。

テラコッタ 「焼いた土」の意。素焼きのレンガなど。釉薬をかけたものもある。

◆横浜市開港記念会館 ジャックの塔



2階広間左手、資料コーナーを飾る3枚のステンドグラス。左右は大井の渡しと箱根越えを描いた1対、正面ファンライトは横浜市章と鳳凰

◆三井住友銀行横浜支店

本町通りに面してずいっと立ち上がった、柱頭にイオニア式特有の巻貝飾りをつけた4本の付柱(つけばしら)が、ともかく目を引く。柱は太く、柱身のフルーティング(溝彫り)模様もくっきりと、安定感に満ちて揺るぎない。窓は大きく、コーニス(軒装飾)にぐるりとめぐらされた意匠も質実で力強い。これこそ昭和初期銀行建築の典型。設計は当時高名だったアメリカの設計事務所による。同事務所は東京・日本橋の三井本館(国指定重要文化財。壮大なコリント式(14頁)の列柱がすばらしい)の設計も手がけており、スタイルのよく似た両館はいわば兄弟だ(むろん三井本館がお兄さん)。





~~~~~

<http://www.hamatenashi.com/meiten/scandia/>



1 階はカフェや食事をカジュアルに楽しめる「スカンディヤガーデン」2 階は本格的な北欧料理が楽しめる「レストランスカンディヤ」。

午前 11 時～午後 11 時 30 分 / 日曜日のみ午後 17 時～午後 11 時 30 分 (1 階のガーデンは昼も営業)

[定休日] 年中無休

~~~~~

横浜情報文化センター

Alte Liebe = 古い恋人。



アルテリーベ

Alte Liebe

ウィンナーカフェハウス&ミュージックレストラン



~~~~~

<https://alteliebe.co.jp/yokohama/>

LUNCH 11:30-15:00 L.O.DINNER 17:30-22:00 L.O

アルテリーベは生演奏のあるミュージックレストランとして誕生

~~~~~

◆神奈川県庁本庁舎

塔屋には登れないが、建物内部は屋上も含めて自由に入ることができる（屋内写真撮影は不可）。外観ばかりでなく、キングにふさわしい玄関ホールを豪奮な造り、また屋上からのミナト風景などもぜひ眺めて帰りたい。



◆ホテルニューグランド本館

横浜唯一、そしてわが国有数のこのクラシック・シティホテルを訪れるなら、一度は海からアプローチしてみたい。船が山下公園の棧橋に近づくとき、本館の屋上、銀杏の並木越しに HOTEL NEW GRAND の骨太のサインが目飛び込んでくる。横

浜港でもとっておきの、胸が顫(ふる)えるくらいに美しく、しかも微かな切なささえ感じさせる景観。陸(おか)に上がって山下公園通りからホテル本館を目の前にすれば、正面 2 階に 14 面の大きな半円アーチの窓を並べた建物の、なんとシックなこと。

脇を通っても、こんな印象を受けず。感性の問題。

◆ペリック・ホール

椰子や棕櫚(しゅろ)を植えた広い庭に面して、山手に残る戦前の外国人住宅でも最大の、これぞスペインといった風の邸宅が建つ。

勾配の緩い屋根にはオレンジ色のスペイン瓦を載せ、明るいベージュの壁はモルタルを饅(こて)でならした跡をそのまま残した洗い出し仕上げ。玄関ポーチに縁を赤いタイルで飾った 3 連のアーチを並べ、高く突き抜けた屋根つき煙突の下部には、獅子頭をあしらった立派な壁泉(へきせん) (壁面に造りつけた噴水) ——南スペインでよく見られるそんな開放的な外観もさることながら、この建物は内部にも魅力がぎっしり詰まっている。

玄関ポーチのアプローチや 1 階の床、2 階各浴室など至るところに使われている、さまざまな種類のタイル。階段や玄関扉を飾る繊細なアイアンワーク。フレスコ技法 (生乾きの漆喰の上に石灰と顔料を混ぜた塗料を塗る方法) を用いた、部屋ごとに色を変えた 2 階寝室の壁。もちろん細部ばかりではなく、壮大な造りの居間やイスラム風のパームルームなども見ものだ。施主のイギリス人貿易商 B・R・ペリックは、フィンランド名誉領事を務めた人。そのためこの建物には公館の意味もあり、1 階と 2 階ではよほど趣が違ふ。その差を探りつつ見学するのは楽しい。

◆外交官の家

北東面に建つ、特徴あるとんがり帽子の八角形の塔屋が目を引き。名前から想像がつくとおり、この建物は明治時代に活躍した外交官・内田定植(さだつち)の住まいだった。もとは東京・渋谷の南平台にあり、和館も併設されていたが、昭和 47 年に取り壊され、平成 9 年に洋館部分のみが現在地へ移築された。今は付属棟との接合部に復元された屋根庇(やねびさし)が、わずかに和館の面影を向田めている。

この洋館は、ニューヨーク総領事やアルゼンチン公使、トルコ特命全権大使などを歴任し、海外生活の長かった内田の要望に応じて建てられ

た。設計者の J・M・ガーディナーは立教学校の教師として来日、のちに立教大学の校長を務め、一方で建築家としても名をなした異色のアメリカ人。施主と設計者二人の思いが一致してか、建物は 19 世紀ヴィクトリア朝時代のイギリスで流行し、アメリカに渡って発展した気品ある建築様式、**アメリカン・ヴィクトリアン様式**の色が濃い。館内各室の内装に当時のアメリカ風の意匠が見られ、またガーディナー自身のデザインといわれる、アール・ヌーボー（66 頁）風のサイドボードと配膳棚も残る。

各展示室ではガーディナーやこの建物について、詳細に紹介されている。学びつつ見て回りたい。

◆ブラフ 18 番館

山手 45 番地にあったオーストラリア人貿易商の住居が関東大震災で被災。現在の木造 2 階建ての建物は、残った部材などを転用して同じ場所に再建されたものだ。赤褐色のフランス瓦を葺いた屋根、上げ下げ窓に緑の鎧戸(よろいど)、ベイウインドウ（張り出し窓）、バルコニーと暖炉の煙突、円柱を立てた玄関ポーチ、そして中(なか)廊下型の平面構成と、震災前の外国人住宅の、いわばお約束ともいえる要素をすべて備えている。ただ外壁が板張りではなく、火災に強いモルタル吹付け仕上げなのは、むろん震災の経験からきたものだろう。

戦後はカトリック山手教会の司祭館として長く使用され、平成 3 年、解体されるのを機に横浜市が寄贈を受けて、同 5 年に現在地に移築・復元された。かつて横浜では山手を英語そのままにブラフ the Bluff と呼び、また現在地が旧山手居留地 18 番地であることから、ブラフ 18 番館の名がついたのだろう。でも、なぜこの建物だけ「山手」でなく「ブラフ」なのか、そこは今一つわからない。

館内は床材は米松(べいまつ)、壁と天井は純白の漆喰、柱や窓枠などはペパーミントグリーンで統一され、温かさと清潔感に満ちている。住んだ人の心根が伝わってくる、自分も一度は住んでみたくなる、そんな建物だ。

◆横浜共立学園本校舎

「共立」とは、プロテスタント各派の連合の謂いであるという。

馬車道・本町通り

建物名末尾の数字は本文掲載頁

- 1 BankART 1929 Yokohama ●10
- 2 横浜指路教会 ●22
- 3 日本興亜馬車道ビル ●20
- 4 神奈川県立歴史博物館 ●14
喫茶ともしび ショップミュージアム店
喫茶・軽食・ピア&ワイン ●18
- 5 馬車道大津ビル ●21
- 6 BankART 1929 馬車道 ●26
- 7 横浜第2合同庁舎 ●19
- 8 日本郵船歴史博物館 ●30
- 9 横浜銀行協会 ●34

*以下は地図中の●マークの建物です。

- 旧東京三菱銀行横浜中央支店（元第百銀行横浜支店）建物本体はマンション。1・2階部分の外壁3面に、昭和9年（1934）建築の、当時の銀行建築の典型的なデザインが復元されている。市認定歴史的建造物。
- 帝蚕倉庫 隣に建つ旧生糸検査所（19頁。現横浜第2合同庁舎）の付属施設として、大正15年（1926）に建てられた。横浜三井物産ビル（66頁）と同じく遠藤た菟（えんどうおと）の設計。敷地内での見学は不可。
- 横浜松坂屋本館（旧野澤屋）伊勢佐木町通りに面したファサードは、昭和初期建築のアール・デコ風の特徴をよく伝えている。大正10年（1921）建築、以後何回か増築。
- 旧横浜松坂屋西館 上記本館と並ぶ戦前の貴重なデパート建築。装飾性に乏しい保守的な外観が特徴。昭和6年（1931）築。
- 不二家横浜センタービル ガラスブロックを使い、窓も大きい建物は一見そう古とは思えないが、昭和13年（1938）建築と聞けば、そのモダンさに驚かされる。エリスマン邸（102頁）を設計したA.レーモンドの作品。
- イセビル 正面、側面の半円アーチの窓が1階までつながって見えるさまは、商業ビルというよりプロテスタント教会の塔屋のようだ。昭和2年（1927）建築。



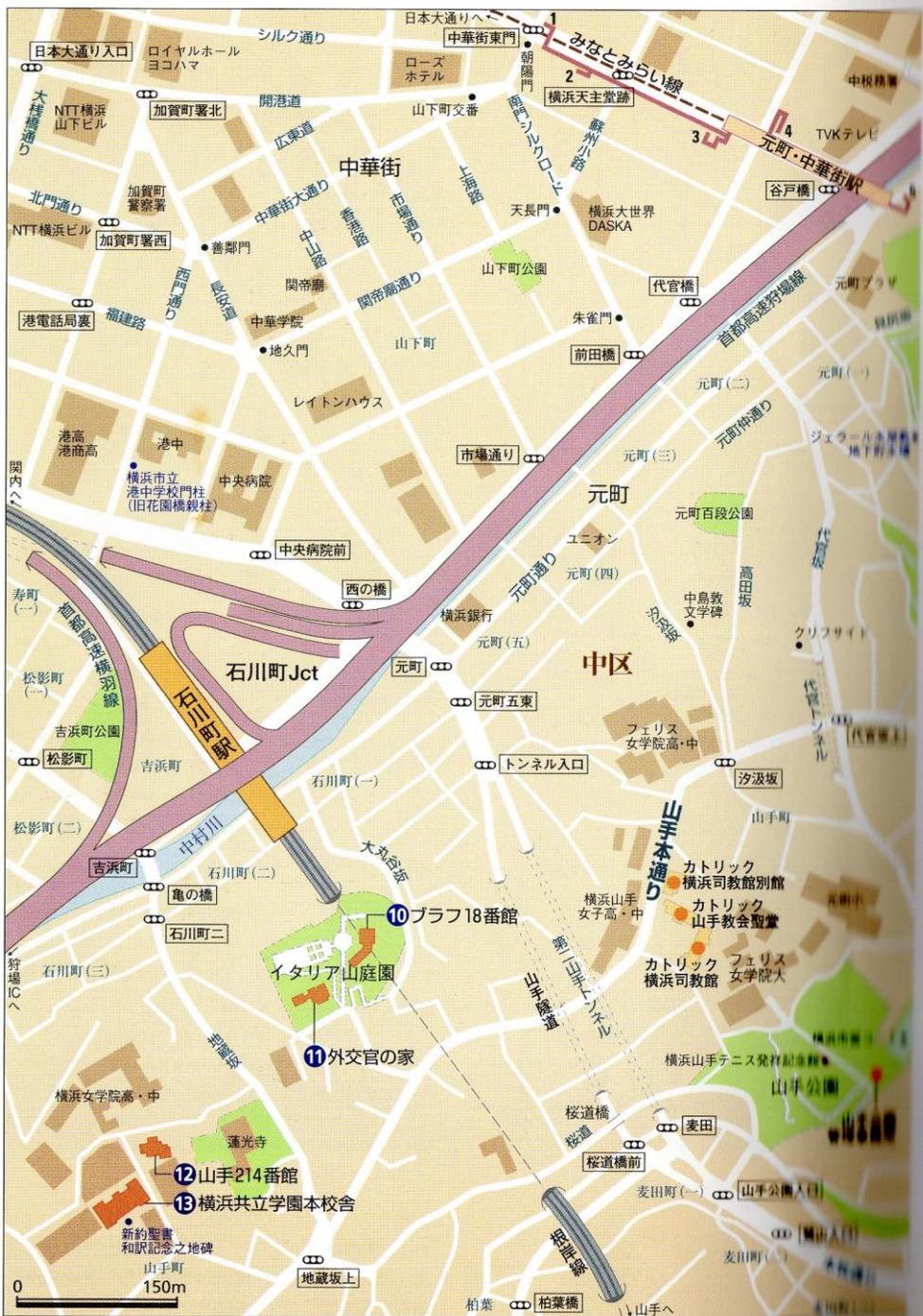


日本大通り・海岸通り

建物名末尾の数字は本文掲載頁

- 1 横浜市開港記念会館 ●42
- 2 三井住友銀行横浜支店 ●50
- 3 横浜税関庁舎 ●48
- 4 横浜赤レンガ倉庫1号館・2号館 ●51
- 5 エキスプレビル ●54
JACK・CAFE! EAST&WESTカフェ&ビアバー ●56
- 6 横浜貿易協会ビル ●55
レストランスカンディヤ 北欧料理 ●57
- 7 横浜開港資料館旧館 ●71
- 8 横浜海岸教会 ●74
- 9 神奈川県庁本庁舎 ●70
- 10 横浜情報文化センター ●58
アルテリベ ウィナーカフェハウス&ミュージックレストラン ●62
CAFÉ de la PRESSE カフェ&ワイン ●63
- 11 横浜都市発展記念館
横浜ユーラシア文化館 ●64
- 12 横浜地方・簡易裁判所 ●67
- 13 横浜三井物産ビル ●66
- 14 旧日本綿花横浜支店 ●68
- 15 ストロングビル ●69
- 16 戸田平和記念館 ●82
- 17 ホテルニューグランド本館 ●78

*以下は地図中の●マークの建物です。
 ●インペリアルビル 昭和5年(1930)築の、かつての外国人商社マン用アパート。
 ●旧横浜居留地48番館 明治16年(1883)築。フランス積みレンガ造りの、横浜最古の洋風建築。県重要文化財。
 ●警友病院別館(旧露亜銀行横浜支店) 古典主義風のコンクリート造りの建物は、大正10年(1921)建築。今後の去就は未定。
 ●綜通横浜ビル(旧本町旭ビル) 昭和5年(1930)建築。当時流行したアール・デコ風オフィスビルの特徴あるファサードを、保全・活用している。市認定歴史的建造物。



山手本通り

建物名末尾の数字は本文掲載頁

- ① 横浜市イギリス館 ●86
- ② 山手111番館 ●90
- ③ 横浜地方気象台 ●94
- ④ 山手資料館 ●96
- ⑤ 横浜山手聖公会 ●98
- ⑥ 山手234番館 ●110
- ⑦ えの木てい ●99
- ⑧ エリスマン邸 ●102
- ⑨ ベーリック・ホール ●104
- ⑩ プラフ18番館 ●118
- ⑪ 外交官の家 ●112
- ⑫ 山手214番館 ●122
- ⑬ 横浜共立学園本校舎 ●124

*以下は地図中の●マークの建物です。

- プラフ80メモリアルテラス 明治末～大正初期ごろ建築の、レンガ造り3階建て西洋館の地下部分の遺構。山手80番館遺構とも。
- 山手公園管理事務所 (旧山手68番館) 関東大震災後、山手68番地に建てられたもと外国人向け賃貸住宅。昭和9年(1934)築。下見板張りの外壁にペランダを備えた、ヨーロッパのバンガロー風の造り。
- カトリック山手教会聖堂 ネオゴシック風の外観が荘厳な、昭和8年(1933)築の山手のランドマーク。設計者のJ.J.スワガーはJ.H.モーガン(90頁)と同じ在留外国人建築家。市認定歴史的建造物。
- カトリック横浜司教館 (旧相馬永胤邸・カトリック山手教会聖堂構内) 〈内部非公開〉明治43年(1910)築の旧相馬永胤邸を東京・戸塚から移築。平成12年の司教館改築の際、ファサードのみを創建時の姿に復元。市認定歴史的建造物。
- カトリック横浜司教館別館 〈非公開〉もと昭和2年(1927)建築の外国人向け賃貸住宅。勾配の急な切妻屋根と大きな屋根窓が特徴。市認定歴史的建造物。